

第2回佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会（準備会） 会議記録

日 時：令和5年2月15日（水）

午後1時30分～3時20分

場 所：佐久市役所 南棟3階会議室

出席者：学校、地域スポーツ団体等

吉岡教育長

社会教育部：土屋部長 スポーツ課：内藤課長、三浦係長、清水

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインについて（スポーツ庁策定）【資料No.1】

(2) 長野県の基本的な考え方等【資料No.2】

(3) 令和5年度 佐久市立学校運動部活動の地域移行に関する取組み方針（案）【資料No.3】

(4) 意見交換

参加の皆様から運動部活動に関する情報提供や意見交換

【出席者】

柱Ⅱ（2）具体的な方法に「部活動 指導員」は国、県からの 補助を 市が受けて任用しており、各中学校における配置人数に上限がある（各中学校で 3人まで、同一学校同一部活動は5年まで）。とあるが全国统一なのか、長野県統一なのか、佐久市のことなのかを教えてください。

【出席者】

労働基準法で定める「1日8時間」「週40時間」以上とならない方とあるのは、本業を含めてということなのか。

【出席者】

教員が登録をして外部指導員になったときに、月曜から金曜まで8時間勤務をして、土日の3時間指導をする。法律を変えるのか、ルールを変えるのかは分からないが、この規定を変えないと教員は一切ダメになるのではないか。

例えば、教職員はこの限りではないとか一文を加えて。

本校でも積極的にやりたい教員もいるので、登録して出来ればいいと思う。

【出席者】

本業1日8時間やると、その日は（指導）出来ないということになる。

【事務局】

事前に意見等をいただくなかで、4人の校長先生からも同様の内容の意見があったが、そもそもこれをクリア出来ないといけないと思う。

法改正が必要なのか、制度上の特例を作るのか、国レベルの話の部分もあるかと思うので、情報収集しながら、県にも確認をしながら対応を検討していく。

また、賃金ではなく、有償ボランティアという形で、勤務などではない関わり方も想定される、事務レベルで確認しながら、地域の方々や教員が入っていきけるようにしていきたい。

【教育長】

部活動指導員の制度的な部分は、国や県単位での対応が必要ではないか。

佐久市だけ有償ボランティアのような対応でいいのか、など情報を正確に収集しながら提供していきたいと思う。

【事務局】

「各中学校で3人まで」は県の方針であり、多くの学校に配置したいという趣旨で原則3人までとなっている。

また、5年までというのは、要綱に記載されており、今後、5年以上に伸びるとの情報もあるので、正確な情報が入り次第お知らせする。

【出席者】

平成30年から任用された部活動指導員が今年度末（令和4年度）に5年目を迎えることについて、国（スポーツ庁から）から示されたものでは、令和5年度から令和7年度までの改革推進期間において、部活動の地域連携及び地域移行に資する取組みを実施する場合、引続き配置支援の対象とすることが、昨日通知があった。（2月9日の国と都道府県による会議の資料とのこと。）

【教育長】

労働基準法の関係について県は考えているのか。

【出席者】

確認する。

【出席者】

労働基準法による縛りがあるとすれば、無理ではないか。

【出席者】

本業を含めて1日8時間の縛りがあると、一般の企業に勤めている人もまず、無理ではないか。

【教育長】

柱Ⅲで民間企業等との連携を検討しているが、この規定があるようお願いに行っても企業としても困ると思うので、しっかり確認をしていく。

【出席者】

地域から国へ発信して変えていくことも必要ではないか。

山間部や都市部などでやり方は、それぞれやり方があるはずなので、課題を国へ訴えていくことも必要ではないか。

【教育長】

令和5年度に予定している第1回の協議会では、マスコミを呼んでの開催を考えているので、ご意見や要望をアピールして、それで議員さんが動いて、日本中で声があがるかもしれない。

既存のことを文部科学省で作っているが、厚生労働省との連携を取りながら、やっていかないと、現場が困る典型ではないか。

各市町村でも同じ意見が出てくると思う。

【事務局】

指導者の方も健康が第一であるので、今後の県などの会議でもお伝えしながら、進めていきたい。

この他にご意見等があれば、事務局までお寄せいただきたい。

【佐久平バレーボール協会の取組みについて】

佐久平バレーボール協会 原氏より資料により説明

【事務局】

確認だが、3校で一組とあるが、空いている学校を隔週でもいいといったイメージなのか。

【原氏】

いつどこでというのは、ある程度計算がつくように活動に参加する方も安心ではないかと思う。

【事務局】

施設の割り振りだとか、他の協議との兼ね合いもあるが詰めていけば解決できるとは考える。

来年度の協議会、部会において具体的に詰めていかなければいけない部分と中体連での条件などあるので、早めに課題の整理をしていきたい。

長期休業中の活動については、佐久市部活動の活動方針のなかでも触れているので、改定をしていくなかでお示しできるとは考える。

【出席者】

スポーツ少年団の指導者は佐久平バレーボール協会に所属しているのか。

【原氏】

小学生バレーボール連盟が別組織である。

また、指導者が全て佐久平バレーボール協会に所属しているわけではないので、連携できていない部分もある。

学区にスポーツ少年団がない、中学校区もあるため、協会で整備をしていく必要があると考えている。

【出席者】

スポーツ少年団が受け皿のひとつとしてあってもいいのではないかな。

【出席者】

例えば、バレーではサーブが下手だとか、レシーブが下手だとか、あると思うが、今日は、サーブを徹底的に練習したいが、休日に行ったら結果的にできなかったということが、起きる可能性があるが、その点いかがですか。

【原 氏】

例のように3つに分けてやっていくが、その中でこのようなテーマを持ってやっていこうというのはできるのではないかな。

顧問先生とお話するなかでも、サーブに絞ってやるグループを作ったり、バレー部に入っていないが、休日の参加した生徒のグループを作ったり柔軟な活動はできると考えられる。

また、大会が近い時期になると学校単位での練習試合などを実践していくこともできるのではないかな。

【出席者】

ある学校の部活を見学した際に、学校の先生から外部指導者が指導の機会を取ってしまうのは困るとの意見があった。

やりたい先生もいっぱいいるなかで、そんなことはないとの説明はした。

バレーボール協会の取組みの考え方はいいと思うが、学校の先生と外部指導者の連携が重要と考える。

【事務局】

この他に、平日と休日の指導体制が違うこと、生徒が混乱してしまうのではないかな、ということもあるので、学校の先生と外部指導者の連携が重要と考える。

【出席者】

先生と生徒の中には、本当に勝ちたい、保護者も含めて、思っている人たちと、そうでない人たちがいる。

外部指導者も含めて、誰のために部活をやっているのかを再確認をして、指導者が分かっていると、子どものためにやっているのか、自分のためにやっているのかが分からなくなる。

そのような指導者をいっぱい見てきた、暴言、暴力など、それは自分のためにやっている。

その辺も含めて皆で話していければと思う。

【事務局】

この他にご意見等があれば、事務局までお寄せいただければ、原氏にお繋ぎしたいと思う。

事前にいただいた意見等について（8名）

【出席者】

指導者のこともあるが、在り方ですね、例えば競技人口が少ない、剣道や柔道は生徒を集めるのは苦しい、自分の学校で成立しない。

団体スポーツである、バスケットボールやバレーボールは学校単位出るしかない、中体連のルールによると1グループ1チームとなっている。

100人いたら5チーム作っていいなどとならないと進まないのではないか。テニスも含めて個人競技は、割と少人数でも出られるものは可能ではないか。陸上も陸上競技場に集まって競技毎にやるなど。

土日は自分の技術を磨くといった考え方にしないと進んでいかないのではないか。

柔道部は旭日道場と連携しているが、旭日道場で大会に参加することが可能かを探っているところである。

道場単位では全国大会が認められないかもしれない。

これが認められてくると平日も含めて地域移行が進むのではないか。

1校に1人しかいないような生徒も個人競技であれば、合同チームにしなくても参加できるのではないか。

【出席者】

1点目が地域移行に関する業務を行う人材を設置していただきたいこと。

2点目が佐久市の広報などを通じて、この地域移行の話題を取り上げてほしいこと。

個人的な考えで、学校に来てお金もそんない出さないで緩く部活をやりたい、小学校のクラブ活動的なイメージで部活動をやっていくところと、競技力を高めていくところを分けてやった方がいいと考えている。

競技力を高めていくところは専門的な人に指導していただく、学校での部活は教員が勤務時間内で教えていくような棲み分けをしていくことを考えている。

【出席者】

陸上部来年度廃止予定で、7つ部活があるが、顧問で専門的に付ける人は1人だけ、その他は専門外となる。

出来れば専門的な人に指導していただきたい部活ばかりである。

行政が主導して休日部活の在り方を変えていただけるのは、本当にありがたい。

原さんからもお話があったように、中体連の大会にはどういうチーム名で参加するのかなとは思う。

子どもたちは自分達の学校が、例えば、東中学校の女バレが県大会を目指すといったモチベーションでやっているが、変わった場合にどういうモチベーションでやっていくのか。

1日8時間、週40時間なんですけど、我々教員も通常勤務のほかに部活を指導しているので、労働者としてではなくて、特例のボランティアのようなカテゴリーなどの工夫が出来ればいいと思う。

【出席者】

資料3に関わって、各団体において指導者の質の確保とか責任の所在とかが曖昧なままスタートしてしまうと生徒指導上の問題や怪我があった場合、どこがどうやって責任を取るのかをしっかりとグリップしていただかないと無責任なことになるのではないかな。

今回モデル事業のなかに、新しくバレーボールが出ている、連盟や協会に丸投げしているのは、良くないのではないかな。

市の方で剣道とバスケですとしているならば、そこを充実してもらって、全体統括が出来ていないと、出来るところから始めるの意味が違うのではないかな。

それぞれに連盟や協会が携わっていただけるのは、大変感謝しているところではあるが、子どもの立場に立ったときに、剣道をこうやっている、バスケはこうやっている、バレーはこうです、これは保護者や生徒にとって本当に同じ立場でバレーも楽しめる、バスケも楽しめるといったときに、基準が違い過ぎるのはどうかなと思う。

ここでも全体統括を市の方で考えていただかないと厳しいのではないかな。

私も10年くらいを目途を持って部活が地域に移行していくという理想を持っていて、3年でなんて無理だと思っている。

ただ、各団体や連盟や協会が無手勝流にやってくださいというのは、教育の場としてはふさわしくないと思う。

しっかりと、協議して慌てないで、生徒のためになるような地域移行を進めていければと思う。

【出席者】

3点部活動指導員に関することを書かせていただいた。

資料2を読むと顧問の先生方は凄い期待をしている。

専門ではない顧問が技術的なところを教えてあげられないと苦慮している顧問もいて、地域に専門的な方がいれば教えていただきたいと思っている。

資料1の3枚目の休日の地域クラブ活動が直ちに難しい場合は、下段の方法と書かれているが、両方とも大事、並行して進めていかなければならないと感じている。

例えば、吹奏楽などは楽器運んで行って、集まって練習するのは現実的ではないし、大変ことである。

学校に直接指導者が来る③-1のような方法も必要となる。

週40時間というのが引っかかってしまうのだが、何とかうまくやっていただきたい。

現状では先生方は休日手当をいただいてやっている、つまり40時間オッケーということになる、それがダメということになれば、今やっていること自体がダメということになる。

【出席者】

(1日8時間、週40時間) このところをクリアしないと誰も指導に立てなくなってしまう、整備の部分も含めて、学校、行政、地域、保護者を含めたところで、国や県にも働きかけていく必要があるのではないかと。

参加する子どもの気持ちも重要なので、声を聞いてもらったり、あるいは理解をしていく、学校を通してになると思うが、学校だけでの説明が厳しい部分もあるので、協力していただきたい。

【出席者】

「体験型クラブ」と「競技力向上クラブ」についても今後、検討に入りますが、まずは、すべての生徒が体を動かす楽しさを平等に受ける、権利があると思う。

そして部活動が体力を付けたり、楽しさを知ってもらう、当然主役は子どもである。

その部分を受入れないで部活をどうするかを大人で考えても如何なものかと思う。

放課後教育の部活動は生徒のレベルに応じて多種多様なスポーツを、スポーツと聞いても嫌いな生徒もいるが、もちづき総合型クラブではスポーツという表現を使っていない。

まずは、窓口を広げて興味を持って、もっとやりたい子には、スポーツ少年団などを勧めている。

さらに競技力向上を目指す子は、技術を磨き、国で目指しているようにオリンピックで活躍する選手になればいいと思う。

資料3では、剣道とバスケットボールが、また、新しくバレーボールが今日出てきたが、色々なことを協議していくのはいいことだと思う。

まずは、やってみることが重要なので検証して行ってほしい。

また、平日と休日で指導者が違うことや、勝利至上主義の指導者などでは子供達が困ると思うが、これも検証して行ってほしい。

学校側の意見だけではなく、受け入れる地域スポーツ団体側の気持ちを汲んでやらないといけないと思う。

今日来ている、荻原は部活指導員の研修を受けた資格を持っているが、このような資格に対する支援もしていただきたい。

また、学生時代にスポーツで技術を磨いた学生等を市の職員として採用し通常の業務と指導することができないかと考えている。

【事務局】

いただいた意見についてお答えできる部分は回答をしたい。

広報については、市の取組み状況についてはいずれ、市のホームページ等で周知してく必要はあると思う。

令和5年度に正式な協議会を設置するので、周知のタイミングを見て行なっていきたい。

責任の所在、窓口の明確化、指導監督などについては、今後、県の中学生期の指針、市の方でも部活動の基本方針の改訂を予定しているので、そういったところも踏まえて明確化をしていきたい。

現時点でこうしていくといったことを申し上げられない。

市の職員として採用できないかについて、給与としての対応などは難しいですが、県では副業のような形が認められている例として、地域の飛び出せ社会貢献職員応援制度というものがある。

県のコンプライアンス行政経営課で資料を出しているが、平成30年の9月に制度自体は出来ている。

報酬を得て行うものである、公共性の高い、社会的貢献活動、地域貢献や職員の能力向上、行政サービスの品質向上が期待されるものなどの色々な諸条件を付している。

活動例の中には学校部活動で技術指導というものが入っているので、佐久市でも取り入れられるのかを検討したい。

【事務局】

部活動指導員に関しての1日8時間、週40時間については確認をしていく。

篠原さんからの部活動指導員への育成支援については、県のスポーツ課でも支援を検討しているような情報もある。

各スポーツ団体においても指導者育成は行っていると思うので、対応をしていく。

【出席者】

剣道の関係になるが、育成会への対応はどうなるのか。

【事務局】

望月には3つ剣道の団体があり、合併はできないのだが、指導に関しては佐久剣道連盟の会員の方が、やっていたりしているので、が育成会への対応は課題となっている状況である。

【出席者】

浅間中学校は他の学校に比べ生徒数も増えているなど状況は異なるが、地域移行には色々な捉え方があり、一番主役の子供たちが悩むような状況になっていけないと思っている。

誰とどうやって合意形成をしていくのかが大事だと思っている。

大きい学校で色々な方が携わることによる、色々な想いがあり、逆に難しさ

がある。

【出席者】

結局、中学校の部活をどうするのが、スタートであり、競技力向上などではなくて、今ある現状の部活動が移行するという考え方でいいのか。

【事務局】

まずは現状のある部活を地域の皆で支えていこうというものである。

その後、今部活に入っていない子もいるし、部活プラスもっと競技力向上をしていきたい子どももいるなかで、そういった希望に答えられる形にしていきたいというのが最終的にはある。

本日、合唱の指導のお二人から感想等があればお願いします。

【出席者】

先生方で休日も指導したい方は多いのか。助かったと思う方が多いのか。

合唱の世界でも厳しいとか苦しいこともあるが、自分の学校の生徒と同じ目標に向かって頑張ることにやりがいを持っている声もあるのと、土日の講師との連携が心配には感じる。

【出席者】

野沢小学校の合唱部の指導をしている。

勤務時間の関係で週に2日、平日に1時間ずつ関わっている。

コンクールなどもあり、大変なこともあるが小学校から中学校まで続けている子は、自分の想いをもちながら、部活動を行っている。

必ずしもスムーズにいったいないこともあるが、先程の楽しみながらやりたい生徒もいれば、コンクールに向けて力をつけていこう、その中でその違いがどうかまでは見られてはいない。

スポーツもそうだが、ひとつのものに向かっていく、そういうものに気持ちよく関わらせていただいていると感じている。

なので、子ども達が気持ちよく活動にやっっていけるものを作っていければいいと思う。

4 その他

【事務局】

令和5年4月より正式に協議会を設置し、地域移行に関する検討を進めていくので、ご参加の皆様方のご協力をお願いしたい。

1回目の協議会は5月頃を予定している。

5 閉 会